

(全国古民家協会広島第一支部) 議事録

記録日：2019年11月1日

記録者：貴船 明子

団体名	一般社団法人全国古民家再生協会広島第一支部
開催日	2019年11月1日(金) 17:00~19:00
開催場所	広島市三篠公民館
出席者(敬称略)	貴船 杉本 土居 油田 櫻井 和田 栄花 山本 貴船
議事	<p>1. 開会宣言</p> <p>2. 宣言文唱和</p> <p>3. 出席者確認</p> <p>4. 支部長挨拶</p> <p>消費税があがる。自然災害もある。私たちもできるところを協力していこう。</p> <p>本日は本部事務局の杉本さんが来られる予定になっている。</p> <p>5. 前回議事録の確認</p> <p>6. 全国報告事項</p> <p>7-1 令和2年度推進会員参加に関して(継続)</p> <p>7-2 住生活月間に関して</p> <p>7-3 令和の大工棟梁検定開催に関して</p> <p>新潟に続いて奈良に検定員として行った。3名の方が受講。</p> <p>18歳と19歳のベトナム人の人が来られた。</p> <p>日本語はわからないながらも、非常にまじめに座学に取り組んでおられた。</p> <p>日本で大工をはじめて3か月。道具もきれいに使っていて、勤勉さがうかがえた。</p> <p>明日は大阪にて開催予定で、貴船が検定員として参加予定。</p> <p>7-4 令和の大工棟梁技術者育成事業に関して</p> <p>7-5 2019年度地区会員大会の開催に関して</p> <p>7-6 第7回再築大賞に関して</p> <p>7-7 古民家すまいる・空き家サイトの拡充に関して</p> <p>7-8 空き家問題TC/古民家ツーリズムMP取得支援に関して</p> <p>7-9 各種スケジュールに関して</p> <p>7-10 メルマガサービスに関して</p> <p>7-11 古民家ポータルサイトに関して</p> <p>7-12 その他</p> <p>7. 会員活動報告</p> <p>(土居)</p> <p>古民家と放れた仕事が多忙。</p> <p>新入社員が入り、社内が盛り上がっている。</p>

(山本)

先月、貴船に偶然会った。増税前に買込みをした。

まちめぐりは急遽の用で行けなくて申し訳ない。全国的に尾道市が話題になっている。

(和田)

左官技能士 1 級を取得。リュウケンの女性職人と現地で出会った。

宇品の現場の終了報告。

福岡県の石灰工場の見学に行き、大変勉強になった。

(油田)

増税の駆け込み需要が落ち着いた。

築 40 年の家の改装をしている。

杉の塗装の羽目板がほしい。良い入手場所を知らないか。

(櫻井)

鑑定後物件についての現状報告。

明日は現地にて伝統耐震診断士のスキルアップ講習を実施。

8. 支部報告事項

支部 8-1 可部の町めぐり出店報告

油田氏の商品が大変良く売れた。

支部 8-2 新聞・メディア古民家情報

10 月 20 日に行われる。古物の販売などを実施予

9. 全国古民家再生協会事務局長 杉本氏のお話

皆さんにお伝えしたいことが沢山あり、本日から 3 日間の講習を例会日程に合わせて実施した。

本日は、伝統再築士の講習をし、明日以降のスケジュールは

伝統耐震診断士の講習、そして実技講習というながれになっている。

私は基本的には東京で活動をしており、東京は情報が集まる場所である。

元々、「古民家鑑定士」を出発点として始まったが、「古民家鑑定士」だけではダメだと痛感している。

多種多様な施策が必要であり、その施策を現実に実行するためには、仲間が必要である。

ぜひ、多くの仲間とともに、チャンスを生かしてほしい。

貴船支部長、自ら「会にはいろいろよ。仲間になろうよ」とは実際には言いにくいものである。

私も東京支部の支部長をしているからその点はよくわかるし、自らの支部では言えないことをお話しさせていただきます。

まず、どうして古民家鑑定士という資格ができたのかをお話しする。

井上氏が先代から会社を継承し、一般的な材木屋から変革し、国産材の古材を販売するという古材倉庫事業を始めた。

社員がみんなやめる。川上氏しか残らないという状態だった。

結果として古材倉庫事業は失敗だった。

理由は、大手の企業に真似をされたからだ。

しかしながら、古材倉庫を通じ、古民家の将来性を感じた井上氏は、古民家を商いにできないかと考えはじめた。

古民家は当時は「フルヤ」と呼ばれていた。

「フルヤ」を「古民家」と命名し、古材倉庫の失敗を踏まえ、大手に負けない力をつける為に、「古民家鑑定士」の資格制度を創設し、仲間を増やした。

試験の講習では講師の話を3時間位聞くこととなり、一緒にやってみたくて感じてくれる人に出会うきっかけになる。

私が古民家鑑定士を取得した動機は、「何かにすがりたい気持ち」だったと思う。

その頃はサラリーマンをしていたが、雇用の保証はなく、本当にこのままで良いのか自問自答の毎日を送っていた。

ちょうど同時期に、病気も見つかり、東京に帰ることになり、会社を退職し、古民家の道へ足を踏み入れることとなった。

今、私は伝統構法耐震評価機構の代表をしているのだが、本当に耐震診断は面白い。

サラリーマン時代はリフォーム業に従事しており、常日頃から古民家を現代の耐震基準で評価するのはおかしいと思っていた。

毎熊先生に出会い、現在の伝統耐震診断を知り、とにかく、先生と仲良くなりたいと想い、たくさん飲み会をした。

私は退路を断ってこの世界に入ったから収入激減。貯えを削りながらの生活だったが、良いことをしているという実感がもてる。

当初は、耐震診断は古民家鑑定に加えて希望があれば実施するという位置づけだったが、床下インスペクションとともに、安心して古民家に住む為には必須であることにより、現在は「古民家鑑定」「伝統耐震診断」「床下インスペクション」の古民家安心3点セットがルール化された。

3点セットを実施するためには、人がいる。それも、専門性を必要なため、有資格者を仲間にするという大原則も外すわけにはいかない。とにかく仲間がいないと良いことができない。

そして、インスペクションの後は、再築をしなければならない。

古民家を在来工法で治すというのはいかがなものか。この問題を解決すべく、伝統再築士が発足した。伝統再築士においても、ただ名刺に書けるだけという安易な気持ちではなく、共に活動する仲間を求めている。

同時に再築基準検討委員会が発足し、井上氏が費用を工面してくれている。私は労力で返すしかないという風実感している。今できるベストだと思うことをやる。「儲ける」とは、「信じる者」と書く。信じて突き進んでいきたい。

ありとあらゆるところから古民家の為に良いと思うことを攻めて行こうという考えのもとに、リフォーム事業者団体登録制度に応募する運びとなった。

リフォーム事業者団体に登録されたことで、国のお墨付きができ、格段に情報が入るようになった。

リフォーム産業新聞に掲載され、我々の活動が広く認められてつつある。

法律を変えるのは難しいけど、条例により建築基準法を変えていこうと、再築基準ガイドラインが発足し、ガイドラインの中に古民家の専門家として全国古民家再生協会の名前が記載された。

地盤は整っているのだから、いろいろなツールを生かして国や自治体と連携を図っていくのが、地域の役目である。

リフォーム生活向上プロジェクトの冊子やチラシなども素晴らしいが、何といてもジャパトラ最高の営業ツールである。

国土交通省がジャパトラに出演してくれるという段階まで、ジャパトラは成長した。会員の人には是非、ジャパトラを買っていただきたい。買わされるけど、でもこれは役に立つ。だまされたつもりでやってみてほしい。だれにとって何が良いかはわからないが、皆さんがやりながら見つけていってほしい。見えないけど楽しいという思いを持って。

昨今の課題として、「空き家問題」があげられる。

空き家は現在、846万棟にも上り、空き家予備軍も多く、これから空き家はどんどん増えることは間違いない。空き家対策は絶対に力をいれないといけない。また、空き家予備軍に対し、空き家を抑制するという事は、非常に重要で、住生活（住教育）事業も注目されている。自治体とも連携して、住教育を進めていきたい。シルバー人材センターとの連携による木造空き家鑑定士も、地域に根差したシルバー会員さんは、空き家の情報を持っており、相互の協力が不可欠といえる。

「モノ」として空き家を見るのではなく、「コト」として空き家を見ていただきたい。

連携団体の一つとして、建築士会とは今後も良い関係を維持していかなければならない。古民家鑑定士はCPT単位が取得できる点を見ても両社の良い関係が見て取れる。我々は昭和25年以前の伝統構法の古民家の専門家として、建築士会とは違う分野で仕事をしていきたい。むしろ、既存不適格建物の専門家として活動している。

空き家と並び、もう一つの課題が、「観光」である。我々はこの課題に対し、古民家活用推進協会を造り、古民家を活用した観光にも尽力を注いでいる。観光を絡めて、補助金を取りやすい状況にあるといえる。

現在、古民家はブームになっていて、古民家で何かをやろうという人は増えていて、今が頂点ともいえる時期になっている。

これからは下降傾向になる可能性もあるというのが私と井上氏の見解。

現在、いくらでも古民家に事業乗り出す人がいる競争が激しい時期だからこそ、我々はインスペクションができ、見える化ができるという強みを忘れてはいけない。他ではできない、付加価値を古民家に付けることができるのは我々だけである。

そんな中、これからは、不動産屋や行政書士を仲間に入れていくことで、古民家に関するありとあらゆる相談を、ワンストップで受け止めることができるチームになっていけると思う。

城泊や古民家ウェディングなど、新しい画期的な取り組みについても説明したい。8月号のジャパトラに、古民家ウェディングについて掲載があるので、是非見てほしい。

城泊を北九州市小倉でしようという話があり、各地域で連携協定を結ぶなど、活発な動きがある。

午前中には広島城にも足を運んだ。広島城は非常に魅力的だった。広島には平和公園もあり、人を集めることができる素晴らしい地域だと感じた。

鳥取で開催される地区大会には出席し、仲間を増やしてほしい。全国大会には500人も集結する素晴らしい成長をとげている団体である。参加し、自らやっていくと気持ちをもち、チャンスを生かそう。再築大賞では国土交通大臣賞が誕生し、今後、より一層盛り上がりを見せるだろう。

私たちはこんなことを10年も続けている団体である。様々な良い活動があるので、一步、踏み出してもらいたい。

	11. 閉会宣言
次月開催日時	2019年12月6日(金) 17:00~19:00
次月開催場所	広島市三篠公民館